

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100267		
法人名	カルミア株式会社		
事業所名	グループホーム咲花唐山		
所在地	名古屋市千種区唐山町一丁目41番地		
自己評価作成日	令和元年10月22日	評価結果市町村受理日	令和2年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	令和1年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様、職員が笑って過ごせるように、季節の行事やイベントを企画したり、地域の行事に参加させて頂いたり職員一同、取り組んでいます。 ・職員のスキルアップの向上の一貫として、施設内研修を月1回ペースで行い、外部研修もパンフレットを配布したり、声を掛けて参加して頂いて、その成果を毎日のケアに役立てています。 ・施設内の清潔保持にも力を入れています、施設の回りの溝や花壇の清掃も定期的に行い、環境整備にも、力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「笑って暮らそう、仲間だよね」の理念は職員全体に浸透し、利用者一人ひとりの心身の状態に応じて心地よい言葉がけや接し方に努め、穏やかで笑いのある生活を実現している。終末期での取り組みでは、利用者や家族へ寄り添い、安楽で穏やかに最期を迎えられるよう主治医や訪問看護等の専門職と連携を図りチームが一丸となり最良な支援に努めた。勉強会で看取り経験を振り返り、今後より良い終末期ケアができるように取り組んでいる。地域との関わりも積極的に行い、推進会議での近隣住民に向け認知症サポーター養成講座を開催した。認知症家族からの介護の悩みや経験談等、活発に意見交換を行い、認知症ケアへの理解を深め地域密着としての役割を担った。参加者からは、また講習会を行って欲しいと要望があり、こうした取り組みを重ね、高齢者が住みよい地域に発展することが期待できる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念『笑って暮らそう仲間だよね』は、フロアから見える位置に貼り、職員は利用者と共に、楽しく日常生活を送れるよう努力している。	職員は日頃から笑顔で利用者に接し、笑って過ごせる環境を作り、理念を実現している。利用者の心身状態によってはそっと見守ったり言葉かけを工夫して、利用者其々に合わせ支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の大掃除への参加、町内のこども神輿は、利用者らが、玄関前で迎え、大きな声援を送り楽しみにしています。地域のかたの運営推進会議への参加あり、日常的にも気軽に声をかけて頂いたり、良好な関係だと思えます。	自治会に加入し回覧板を介して地域との情報交換を行っている。散歩の際には住民と挨拶や立ち話をし、地域の一人として溶け込んでいる。町内の祭りやハロウィンでの近隣幼稚園との交流は、恒例行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板等で、認知症サポーター養成講座の開催を呼び掛け、地域の方、家族、職員も参加して、施設内で開催し、地域の方からは、また、開催して欲しいとの声もありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域の方、いきいき支援センターの職員、関係者の方等が、参加して頂き、いろんな観点から、意見を頂き、すぐに取り入れることができることは、すぐに実践させて頂いています。	推進会議は定期的開催され、イベント時の写真を見せながら施設の運営状況を伝えている。また利用者が行っている体操やゲームと一緒に行う事で、認知症ケアへの理解を深めている。認知症サポート養成講座や摂食、嚥下の勉強会を行い、推進会議を活かした取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の教育やフォーラムに参加し、情報共有に努めています。	区窓口には、更新申請や生活保護利用者の生活相談等で足運び、必要に応じて相談できる関係性を築いている。市町村主催の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で、研修を行い、正しく理解した上で、ケアに取り組んでいます。	身体拘束項目のチェックリストを用いて勉強会を行い、職員全体に身体拘束のない支援を意識付けしている。スピーチロック等とっさに出してしまう言葉掛けにはその都度注意したり、フロア会議で取り上げて話し合い、認識の統一を図っている。玄関の施錠は、エスケープをして転倒した例があり危険対策として施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で、研修を行い、正しく理解した上で、ケアに取り組んでいます。入浴時や更衣時に、身体の様子観察を行い、変化ある時は、リーダーに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で、研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者である、施設長が、利用者、ご家族に丁寧に説明し、不明な点についてある場合は、その都度説明して、理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族と気軽に話せるような関係作りに努め、意見や要望を話し合えるよう対応しています。	家族の面会が多く、その都度ゆっくり話をして意見を引き出すように努めている。必要時には電話や手紙で様子を伝え、即座に状況を報告するようにしている。些細な要望でも申し送りで職員へ周知して、支援に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い、提案を聞き入れて頂く、機会があります。日常的にも気軽に話しています。	管理者は職員の様子を察知して、悩みがあれば個別に話を聴くなどして、働きやすい職場作りをしている。また、有休や研修の希望を叶えている。職員から出たレクや業務改善の要望は、話し合いをして取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、整備に努めている。職員の悩み、要望、問題がないかなど個々に聞くように心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を利用し、個々のレベルアップを図ると共に、現場の中で注意点、改善点を指摘して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の他施設との交流はあるが、同業者との交流は、研修会参加等に限られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔を忘れず、本人の言葉に耳を傾ける。本人、ご家族の話を良く聞き取り、書面にまとめ、事前に情報を共有し、安心して過ごして頂けるよう支援するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談より、ご家族よりお話を伺うことと、何かあったら、電話等で連絡頂ければ、対応しますと伝え、来所時には、こちらから声をかけ、気軽に会話できるような関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談や、契約時には、趣味や好きなこと、苦手なこと、不安なことを聞き、その時々に必要な支援を行うように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様の関係は良く、利用者様が何でも言えるような関係性を気づけているように思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の事で、不安がないように、しっかり連絡、報告を行っています。ご家族様からの連絡や質問等にも、しっかり対応させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様に面会にこられた馴染みのかたとの関係は、大切にできるよう支援させて頂いています。	友人や知人が気軽に面会に来たり、電話や手紙等は希望があれば支援している。家族の協力で長年通っている美容院へ行ったり法事や実家への帰省したりと馴染みの関係への支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様みなさんでレクレーションを行ったり、フロアにて共有時間を作るなどして、支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、相談などの連絡が来た際は、支援させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話に努め、本人の希望をなるべく取り入れるよう努めている。	笑って暮らそう、の理念をもとにまず職員が楽しく笑顔で常に話しかけ、例えばテレビで懐かしい映像やモノが出るとそこから話題を投げかけ、返った表情やしぐさから、楽しんでいる様子や盛り上がる話題があれば職員同士が共有。また、嫌いなモノや話題なども共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや利用者様、ご家族様との会話の中から、入居前の生活歴を参考にして、理解できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は、ご本人のペースで過ぎて頂けるよう努め、ご本人の出来ることは、楽しんで行えるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアミーティングで、利用者の状況等を話し合い、共有することで、介護計画に反映させている。	担当者制はとっておらず、フロア会議で出席する全職員が利用者全員の状況について話し合い、利用者が今できそうなこと、やれることについては吸い上げて計画に落とし込むようにしている。変化があれば都度、なければ6か月ごとの見直しをしており、家族の了解を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化でも記載し、申し送りで情報共有をしています。月に1度の会議でも、利用者様のケアに対しての見直し、共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一日の決まった流れはありますが、その時々に応じて、ケアの方法を変えたり、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に心がけ、利用者様が楽しんで暮らせるような支援を心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	書面をもって、往診前情報をおかかりつけ医に情報提供し、往診後は、往診時の情報をその日のうちに、フロアスタッフと情報を共有して、ケアに反映している。	もともとのかかりつけ医を協力医と併用している人もいる。協力医や訪問歯科医から専門科の受診を薦められ、紹介状をもらうなど医療機関同士の連携もとられている。家族の受診支援が得られない場合は管理者が付き添って受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療連携で、利用者の急変時に連絡し、必要なときは、駆けつけて頂いている。週一回の訪問看護師の訪問時には、体調の変化等の報告をし、対応や処置の方法など、アドバイスして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを作成し、利用者が環境の変化に少しでも馴染んで頂けるよう支援している。早期に退院出来るよう、訪問看護師、かかりつけ医に状況報告を行いながら、入院先の担当者と連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケア・看取り研修を施設内で行い、利用者、ご家族、かかりつけ医、訪問看護師等、フロアスタッフとその都度、話し合いながら、支援に取り組んでいます。より良い支援が出来るよう、研修会を行ったり、過去の経験を語りあったりしています。	看取りをうたってはいるが、家族や利用者、入居時やその時々に応じ終末期をどうするのか話し合っている。今年度も看取りがあり、居室で家族と穏やかな最期を迎えた人がいる。職員はフロア会議や終末期に関する資料で勉強し、その日を迎えた。今後は訪問看護師による勉強会も開くつもりでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で、スキルの向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	被災訓練等を施設内で、行っている。	年に二回の避難訓練があり、外部評価後にも夜間想定避難訓練が予定されている。賞味期限にあわせ非常食試食会を行い、備蓄食料について考える機会ももった。芋煮会の企画があるので近隣住民との炊き出しなども考えていくつもりである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こころがけているが、今一度見直すことは、必要と思います。	おむつ交換は居室の戸を閉めて、であったり、トイレでの声掛けは静かに他人に配慮して、といったような基本はもちろん、利用者の一人になりたい気持ちの時には皆からちょっと離れた場所に静かにくつろいでもらうスペースを設けるなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の会話の中で拾い上げたり、表出が出来るように、努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に寄り添うケアに努めるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えるときに、着る服を利用者と一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付けを手伝ってもらったり、一緒に出来ることは、なるべく声を掛け一緒に行うよう心掛けています。	食材配達を利用しているが、週に一度朝食は自由献立にしたり、行事食や特別食の日を設けたりしている。おやつレクも利用者は楽しみにしている。野菜の皮むきや洗い物、洗濯の干す、たたむなどできることはやってもらっている。喫茶へでかけたり、家族と外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録で管理はしているが、フィードバックが出来ていないので、今後の課題です。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きを出来る利用者については、キッチンと磨けているかのフォローが出来ていないので、今後出来るようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄後に介入することで、状況を把握し、自力での排泄が続けられるようフォローしていきたい。	自立している人もいるが、排泄後に確認をして記録はつけている。確認を拒否する人もいるので、訪問看護師に定期的におなかの状態をみてもらっている。なるべくそれぞれの利用者がトイレに行きたい気持ちを大切に、強制しないよう気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の状況を把握し、足りない場合は、スポーツドリンクや好みの飲み物を提供するなど、飲んで頂けるよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は、利用者の入りたい気分に合わせて、入浴して頂いている。	週三回の入浴を基本とし、利用者の気持ちに合わせて時間をかえたり、一日ずらせてみたりすることもある。しょうぶ湯、ゆず湯という季節の変わり湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床は、利用者の希望する時間に行って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されているお薬は、処方箋を読み、理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のルーティンで、ひとりひとりと向き合う時間が少ないので、時間を作って対応出来るように努めます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の回数が少ないので、機会を増やして行きたい。	利用者の状態にあわせなるべく外出機会を作ろうとはしているが、現状は定期的にはできていない。地域の祭りでは玄関先に椅子を並べ見学している。近所の喫茶店まででかけたり、あるいは少人数ずつ回数を分けてドライブしたりしている。また家族と外出を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方には、ご家族と相談して、お財布にお金を入れてあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には、事務所にて、電話をかけてもらっています。お手紙やはがきも希望があれば、書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が清潔に保たれるように、フローアやトイレの清掃は、毎日行っている。フローアには、季節の装飾を飾って、季節感を楽しんで頂いている。	各フロアの居間は暖かく広々として、ソファやマッサージチェアで仲良くくつろいでいる人が見られた。中庭をぐるりととりまく廊下をゆったり散歩している人もいた。レクで作った季節の飾りや行事の写真が壁を飾っている。掃除も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とは、別にソファがあり、気の合った利用者同士で寛ぐ環境を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた家具や小物、写真等を置き、利用者個々のパーソナリティーを確立できるようにしている。	居室はそれぞれが持ち込んだ家具やテレビがおかれ、家族の写真や小物、色紙などが飾られている。居室の掃除はできる利用者には職員と一緒にやってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは、やって頂く事で、自立した生活ができるよう心掛けている。		